

令和 8 年度第 1 回川崎市多摩川プラン推進会議 議事録

1 開催日時 令和 8 年 8 月 31 日（月）午後 3 時 00 分～午後 4 時 40 分

2 開催場所 川崎市役所本庁舎 101 会議室

3 出席者（敬称略）

委員長	吉富 友恭	東京学芸大学教授
副委員長	水庭 千鶴子	東京農業大学教授
委員	金澤 須美男	NPO 法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	寺尾 祐一	NPO 法人多摩川干潟ネットワーク理事
委員	目黒 孝哉	味の素株式会社
委員	中附 花音	富士通株式会社
委員	坂本 正治	市民公募
委員	江原 和人	市民公募
委員	小久保 孝志	市民公募
委員	大野 光秀	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所事業対策官

4 議事

≪ 報告事項 ≫

- (1) 令和 7 年度新多摩川プラン実施事業報告書【多摩川は今】について
- (2) 川崎駅周辺地区総合整備計画に基づく河川空間の魅力創出の取組について
- (3) 川崎市緑の基本計画改定に係る取組状況について
- (4) 多摩川における取組の報告について

≪ 審議事項 ≫

- (5) 川崎市新多摩川プランの改定について

5 配布資料

- ・ 次第
- ・ 令和 8 年度川崎市多摩川プラン推進会議委員名簿
- ・ 資料 1 令和 7 年度新多摩川プラン実施事業報告書【多摩川は今】
- ・ 資料 2 川崎駅周辺地区総合整備計画に基づく河川空間の魅力創出の取組について
- ・ 資料 3 川崎市緑の基本計画改定に係る取組状況について
- ・ 資料 4 丸子の渡し・登戸の渡し【報道発表】
- ・ 資料 5 川崎市新多摩川プランの改定について

7 傍聴人の数 なし

8 発言の内容 次のとおり（要約方式）

—開会—

【事務局】（事務連絡・会議の成立に関する説明）

【緑政部長】（挨拶）

【吉富委員長】（傍聴人確認）

<議事(1) 令和7年度新多摩川プラン実施事業報告書【多摩川は今】について>

【事務局】（資料に基づき説明）

【金澤委員】冊子については、整理されていて見やすい。ふれあいロードの減速ハンプがあると思うが、使う人が増え、スピードが気になる。

【事務局】現在、路面標示の整備をはじめ、各種イベント等においてマナー啓発チラシを配布するなど、利用者のマナー向上に向けた啓発活動を実施している。ハンプについてはいくつか設置したが、あまり評判は良くなく、自転車がハンプを避けてしまう。色々課題があるため、引き続き対応していくが、より効果的な方法を検討していく。

【江原委員】ハンプについて所々危険な箇所があるが、せせらぎ館の手前のふれあいロードが狭い。活動で十数人連れて歩くと結構なスピードで自転車が通る。特に狭いところなど、土日に交通量が多くなるため、そういったところにも減速の対策を検討してほしい。

【事務局】狭い部分はスピードを出されてしまうと、歩行者とぶつかる恐れもあるので、対応策については引き続き検討していく。

<議事(2) 川崎駅周辺地区総合整備計画に基づく河川空間の魅力創出の取組について>

【事務局】（資料に基づき説明）

【江原委員】多摩川の空間を活かしたまちづくりに期待はしているが、温暖化による影響で施工や被災時の復旧なども含めて検討しているか。資金面はどうか。

【事務局】整備についても防災減災は重要である。国との協議でも考える必要があると話している。災害の激甚化により、高水敷は水位が上昇する可能性もあるため、すぐに復旧できるものや、一時撤去なども含めて検討していく。資金面はかわまちづくり支援制度の活用を考えており、河川管理施設は国による整備が可能であること、国の補助金などの支援対象になるので活用を見据えながら取組を進めている。

【目黒委員】アリーナシティプロジェクトについては、パートナー企業として参画させていただいている。また、川崎駅周辺だけではなく、下流域の港町河港水門隣接企業として周辺整備計画案策定にコメントさせて頂いている。水辺で人が集まればごみが発生する。台風等で川の水位が上がると上流部からのゴミが流れてきて、葦に引っかかったりしている。ゴミ対策を検討してほしい。

【事務局】アリーナ開発者が積極的に川にもかかわっていく姿勢があり、河川環境をクリーンに保つことを意識し、地域の方々とも連携していく。

【坂本委員】出来上がったもののイメージは素晴らしいが、環境学習のみではなく、作っていく過程を学校や子どもたちに伝えていくことに意義がある。役所の人が過去、現在と今後を説明

する機会があるとよい。また、下流だけでなく上流とのかかわりも併せて学習できると良い。川のつながりを知るきっかけになる。

整備後は騒がしいイメージもあるが、高齢者などがゆっくり静かに憩える空間ができると良い。

【事務局】将来のことを考えたときに子どもたちに学んでもらうことは重要であると考えている、学校への講義や水辺の楽校の講義などもあるが、上流体験のような事業も当課で実施しているため、全体で多摩川的环境について子どもたちに伝えられる方法を検討していく。日常の憩いの場としても河川敷が重要であると考えている。イベントやにぎわいも大切だが、地域の方の散歩なども多いため、この取組でも意識して検討していく。

【吉富委員長】 イベント時だけでなく、日常的なかかわりにも触れた計画になると良い。

【中附委員】 イベント時など人流について、横浜のアリーナなどあまり評判が良くなく、川崎駅前も現状密度が高くなっているのではどのように考えているか。また、モニタリングについて、生物多様性の情報収集するフェーズだと思うが、情報の活用の仕方を考えていく必要があり、民間事業者としても柔軟な活用の仕方についても検討していきたいと思う。

【事務局】 アリーナは1万人収容する施設であり、イベントがあった際に一気に出ていくと大変なことになる。終わった後に多摩川を介して上流や下流へまちを回っていただくことを民間事業者も考えており、まちを楽しみながら帰ることができるような工夫を検討している。市としても事業者と協議しながら案内方法も含めて検討していく。モニタリングについては、環境局とも連携し、様々な調査やデータもある中で、民間事業者は環境 DeNA などの調査を考えているが、どう活用していくかも重要であると考えているため、今後検討していく。

【寺尾委員】 アリーナの実現は素晴らしいと考えている。全体を通して国道409号線で分断があったが、聖蹟桜ヶ丘は盛土があるなどとはアクセスが良くなかったことがわかるが、川崎市域の多摩川のアクセスがあまり良くないがどのように考えているか。

【事務局】 川崎駅周辺について、今回アクセスは向上するが、全体ではあまりアクセスしやすすくないことは認識している。ルートの案内を丁寧に紹介することや今回のようなアクセス向上の機会を捉えながら進めていけると良いと考えている。

【小久保委員】 人工ワンドの部分が気になった。子どもと一緒に川に行く際、親水は垂直の護岸で砂利を通っていくと思うが、どこからでも川にアクセスできるかつ、茂みなど様々なところを通りながらアクセスすることも大切だと思う。泳げる多摩川というところにもとても魅力を感じた。坂本委員も言っていた通りゆっくりできるところもあるといいと思う。

【事務局】 この場所は水流が大きく、水衝部という流れがぶつかる場所もあるので、親水空間が現状はない状況であるが、そこに少しでも親しめる環境として親水護岸の整備や水上アクティビティができるように検討をしている。親しみのある空間づくりはしていきたいので、意見を参考にさせていただきながら取組んでいく。

【水庭委員】 イメージ図で舟運など水上の計画が書かれているが、どこまで検討するのか。

【事務局】 現在、船着き場の整備も国と協議している。六郷の渡しイベントなども地域で行っている。現状は船について検討できていないが、船着き場を活用したイベントや観光に寄与するような取組ができる可能性もあると考えている。

<議事(3) 川崎市緑の基本計画改定に係る取組状況について>

【事務局】（資料に基づき説明）

【吉富委員長】緑の量として水辺空間は 2008 年から数え始めているということだと思うが、多摩川プラン改定ではこの点も重要となる。

【目黒委員】緑被率とあるが、樹齢も考えると、どれくらいの周期で植樹をしていくべきなのかなどを水庭先生に教えてほしい。

【水庭委員】木も樹齢がある。ソメイヨシノは 60～80 年と言われており、管理の仕方によっては 100 年のものもあるが、同じ桜でも枝垂れなどは 400 年などもある。植樹の目的としては更新作業を前提にするのか、大きくしていくのかで違ってくる。更新作業を本当にできるのかも検討することも必要。里山だと薪の活用として伐採することを前提に 20 年くらいの期間のものを育てていた。大切に育てた樹木でも近年の台風や風の影響で倒木も増えているので、早めの更新を検討していくことも考えていくべきだと思っている。

【目黒委員】事業をやる際に緑化をしていくことは意識しているものの、場所も含め、市の指針に沿って木を植えている。多摩川から見たときにどのような木を植えた方が良いのか等考えなくてはいけない。

【水庭委員】一般的には早期成長のものはその分寿命も短い傾向がある為、今後のことを考えて樹種など選定すると良い。

<議事(4) 多摩川における取組の報告について>

【事務局】（資料に基づき説明）

【吉富委員長】10 月 4 日のイベントは先ほどの資料 2 にある社会実験と同じものなのか。

【事務局】そのイベントとは別のものである。

<議事(5) 川崎市新多摩川プランの改定について>

【大野委員】河川整備計画や河川環境管理計画について、諸計画を反映しながら変更を検討していきたいと思っている。

【目黒委員】学習について、川崎市にもせせらぎ館や干潟館等の施設があるが、国土交通省もいるので流域懇談会などで源流見学などもやっているの、市域だけでなく、上流から下流までのツアーがあると良い。

【大野委員】多摩川流域懇談会の関係においては、行政主催で今年は丹波山村に一般公募もしながら実施している。国もダム事業などで上下流交流事業も実施した事例もある。そういったものも要素として入れられると良い。川崎市も含めて流域の自治体と調整できると良い。

近隣においては鶴見川流域で横浜市の子どもたちが、上流に植樹しに行ったりする事業も展開している。

【吉富委員長】流域スケールでとらえて学習機会を考えられると良い。

【坂本委員】交流会も一度だけいくのではなく、継続して続けられると良い。

【事務局】継続が大事だと思っている。学校への出前授業なども連携していきたい。

【吉富委員長】学校は重要なキーワードであるが、これまでプランの中で取り上げられることは少なかったのか。

【事務局】水辺の楽校などは取り上げているがあまり学校関係はなかったため、今後関係局と調整していきたい。

【水庭委員】関連計画が書かれているが、学ぶというところで伝えるという内容が少ないので、今まで以上に力を入れていただきたい。

【金澤委員】エコミュージアムも出張講義を始めているが、学校の先生の意欲によって違う。先生が変わるとテーマが変わることもあり、難しいが、継続していきたいと思うが、一律で全体の計画に入れられるかは少し検討いた方が良い。

【寺尾委員】小学校の授業実数の低下により環境学習になかなか行けないのではと思っている。東京の私立小学校が多摩川を研究して上流中流下流をめぐっている。東門前は殿町小が多いが、国道409号線を渡ると先生の多摩川への意識が薄れる印象がある。環境学習の温度差を感じる。

【事務局】隣接していない区は連携に悩んでしまうこともあるが、水がどこに流れていくのかなどを考えることも必要だと思うので、関心を持ってもらえる工夫を検討していく。

【中附委員】興味ある人は進んで行動する。もともと意欲がある人には限界があると思うが、興味がない人も自然に活動できるか、興味を持ってもらうことが重要だと思う。

生物多様性などがどのように実用化されるかが大事。例えば防災など、どれだけ緑が役立っているかを発信することに力を入れてほしい。

【事務局】企業の方の情報発信の手法や協力を頂きながら、発信していきたい。

【小久保委員】暮らしに直結するという形の方が多摩川を近く感じてもらえると思う。例えばだが、野草を食べるや多摩川にも入れるんだよということなど。多摩川へのアクセス堤防の階段などが少ない印象。歩いてしか行けず自転車は担がないといけない場所など多いので、改善できると良い。